2013年度愛労連青年協

第24回定期総会

議案集

Learn from yesterday,
live for today,
hope for tomorrow.
The important thing is not to stop questioning.

- Albert Einstein -

過去から学び、今日のために生き、未来に対して希望を持つ。大切なことは、何も疑問を持たない状態に陥らないことである。（アルバート・アインシュタイン）

2013.12.15 @東館ホール

第 24 回愛労連青年協議会議案・目次

[１]情勢
１．世界・日本の特徴
２．青年の置かれた労働環境
３．青年部の組織強化と学習

[２]とりくみの総括と今後の方針

●総論　～チーム・スマイラルの結成～

１．青年の交流・連帯

◆第２３回愛労連青年協定期総会
◆青年協冬ツアー・やぶはらゲレコン
◆青年協お花見会
◆青年協新歓地引網バスツアーin 内海
◆青年協夏バスツアーin ふくべの里
◆第 22 回東海北陸ブロック・サマーセミナーin 岐阜に向けて
　①ブロック会議の様子
　②青年協の様子
　④第 22 回東海北陸ブロック・サマーセミナーin 岐阜
◆１３年度代表委員会
◆ボウリング大会

２．平和と民主主義
◆若者平和ネットワーク

３．権利・労働条件向上のたたかい
　①最賃生活体験
　②トヨタ総行動
　③第 84 回中央メーデー
　④愛労連特別セミナーin 蒲郡
　⑤青年連絡会の活動（名古屋市長選挙）
　⑥全国青年大集会２０１３

４．大きく強い愛労連を作ろう
　①組織強化　※ヨコのつながり、単産との関係（医労連新歓、東海法労クイズ大会）など
　②機関会議　※幹事会の様子
　③上部・共闘団体　※ブロックや全労連とのかかわり
　④機関紙（AIAI）＆ニュース発行などの広報

５．今後の日程

２０１４年度運動方針（案）

愛労連青年協
２０１３年度総括と２０１４年度運動方針案（案）
（２０１２．１０～２０１３．１２）（２０１３．１２～２０１４．○○）

[１]情勢

１．世界・日本の特徴

①世界の中心は多国籍企業！？

2008 年のリーマン・ショック以後、世界は「国家弱体」に向けて動き始めており、それは今もまだ続いています。グローバル化した社会では、国家よりも多国籍企業の方が上位に立ち、株式市場で多国籍企業が成長していく一方で、国家財政の赤字がどんどん膨らんでいる現象が同時進行しています。アメリカも、ユーロも、日本も、国家そのものが弱体化して、多国籍企業が成長しています。

多国籍企業とは、活動拠点を一つの国家に置かずに複数の国にわたって世界的に活動している営利企業であり、企業利益の追求が主眼にあります。多国籍企業は悪政の“黒幕”として、自らの利益誘導を図るために一方的に政治をも利用することがあります（ex.「ＩＳＤＳ（投資家対国家の紛争解決）条項」）。企業による「国際競争力」強化を口実としたコスト削減、労働者はコストとして扱われる一方、円安による業績回復で内部留保は拡大し続けています。12 年度の内部留保は総額 267 兆円で、その１％によって 1,000 人以上の正規雇用増が可能なほどです。

これまで膨れあがった内部留保は使い道がありません。不況でモノが売れないのに設備投資をしても無駄になるとして、企業によっては内部留保の一部を海外のﾌｧﾝﾄﾞで運用しています。多国籍企業には雇用増や技術革新という発想もありません。経済的自由競争を重視し、ときに、それを絶対視します（市場至上主義）。そのため多国籍企業は、日本政府に法人税の切り下げや労働規制の緩和、労働法制改悪、解雇の金銭解決、“限定正社員”化などを要求し、それがまかり通ってしまっています。 電気産業のリストラ（ソニー美濃加茂閉鎖）や、合理化の名の下に「ユニクロ」が世界同一賃金を取り入れるなどは、多国籍企業のやりたい放題です。海外においては、フランスのルノーの撤退を政府が阻止するなどの例があり、これとはまさに正反対です。

多国籍企業と国民は、今や利益相反の段階に至っています。むしろ国民生活は企業利益の犠牲になっています。企業が金もうけするのは自由ですが、「日本の企業」を理由に、国民に犠牲を強いることはできません。まして教育政策やエネルギー政策や果ては外交や財政や憲法にまで口出しすることは論外です。日本の労働者をコストとして切り下げることは、短期的には企業の収益を高めることにはなるけれど、長期的には内需の崩壊を招きます。各企業は「利益至上主義」ではなく、今こそ自らの社会的責任（ＣＳＲ）を果たし、内需中心の景気回復と震災復興を目指すべきです。

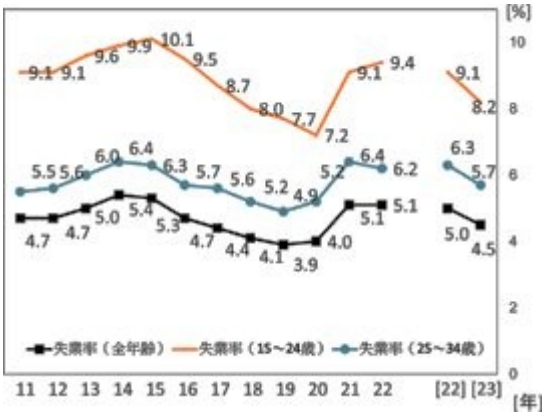
②労働者の行く末

国際労働機構（IL0）は、年次報告書「世界の雇用情勢 2013 年」によると、13 年の世界の失業者数は、前年より 510 万人増え、2 億 200 万人に達する見込み。14 年以降も失業者は増加すると予想しており、17 年には 2 億 1060 万人に達し、失業率も 6%に高止まる可能性がある、と指摘している。特に雇用情勢が深刻なのは 15 歳～24 歳の若年者で、世界で約 7,380 万人（失業率 12.6%、2012 年）が失業中で、今般の景気減速によって 2014 年までにはさらに約 50 万人が増加すると予測している。

世界の失業者数は、2008 年の世界金融危機後、急激に増加し、その後 2011 年まで一旦は緩やかに減少したが、2013 年に再び増加する見通しです。この要因については、2012 年の欧州、日本、アメリカなど先進国の情勢悪化が金融市場や輸出入等を通じて世界各地に波及したためと分析しており、この傾向は今後しばらく続くと見込んでいる。

図 1. 世界の雇用情勢の推移と予測 （2002 年-2017 年）

2．青年の置かれた労働環境



厳しい就職状況

若者（15～24 歳）の完全失業率は、9.1%（平成 21 年平均）と、依然年齢計（5.1%）に比べて相対的に高水準で推移しています。フリーター数についても、平成 15 年の 217 万人をピークに 5 年連続で減少したものの、平成 21 年には 178 万人と 6 年ぶりに増加するなど厳しい状況にあります。（総務省統計局「労働力調査」）

ブラック企業

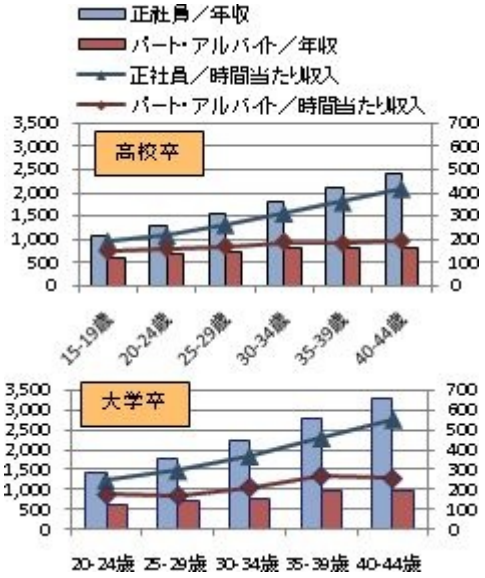
一方、職に就いた労働者は、酷使・選別され、使い捨てにされる企業、いわゆる「ブラック企業」が問題となっています。度を超えた長時間労働やノルマを課し、耐え抜いた者だけを引き上げ、脱落者に対しては、業務とは無関係な研修やパワハラ、セクハラなどで肉体・精神を追い詰め、戦略的に「自主退職」へと追い込みます。ブラック企業には、長時間労働やサービス残業を強いる「使い捨て型」、大量採用後に必要な人材以外は辞めさせる「選別型」、パワハラや退職強要を放置する「無秩序型」などがあります。金融危機の影響で就職難が深刻化した 2000 年代後半から、こうした企業を指すようになりました。その明確な定義はないものの、入社 3 年内の離職率の高さや社員の年齢構成(30～40 代が極端に少ない等)が 1 つの指標とされています。

いわゆるブラック企業が存在する一因が、ここ 20 年間にわたるデフレにあり、「成長」しないデフレ経済下において、企業は生き残りをかけてコストカットに全力をあげてきています。その中で、労働者へのしわ寄せが起こり、長時間労働や労働環境の悪化が放置されてきました。そのため、労働者にとっては企業の都合で自由自在という状況になり、これが行き過ぎればブラック企業になるのです。

非正規雇用

年齢が上がれば収入が増加する正社員に対して、パート・アルバイトはほとんど上がらず、横ばい状態となっており、正社員と正社員以外の雇用形態との賃金格差は、年齢が高くなるにつれ広がっていきます（45～54 歳では正社員の半分以下）。非正規雇用の欠点として、企業の経営状況に合わせた調整弁として簡単に切り捨てが行われる不安定さが挙げられますが、そもそも雇用が継続的に行われたとしても収入の面で正規雇用と比較すると大きな差があります。それだけが要因とは言い切れませんが、結婚している人の正規・非正規比較をしてみると、２倍以上の開きがあり、不安定な生活から結婚を諦めてしまう青年が多いことがわかります。これは、今後迎える少子高齢化社会への対策として子育てを支援しようとしている国などの施策に反しており、正規雇用の増加を促すような政策を実行していくべきであると訴えていく要素の一つになると思います。

【学歴と賃金上昇】



（資料出所）独立行政法人労働政策研究・研修機構「若年者の就業状況・キャリア・職業能力開発の現状―平成 19 年版「就業構造基本調査」特別集計より―」2009

【賃金格差】

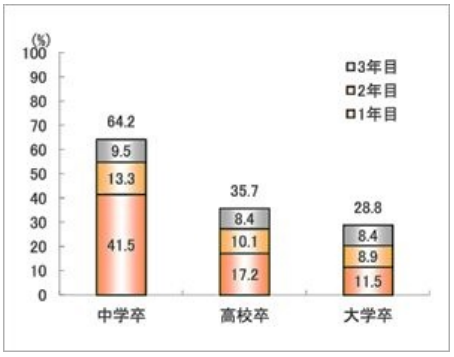
（資料出所）厚生労働省「平成 23 年賃金構造基本統計調査結果（全国）」

奨学金返済問題

もはや「奨学金」という名に値しない日本の教育ローン制度。大学生を持つ世帯の困窮に加え、異常な高学費、そして破壊された若者の雇用環境。返したくても返せないのは当たり前。それでもサラ金より過酷な取り立て。非正規雇用や就職難の広がりなどで、学生時代に借りた奨学金を返還できないケースが増えています。

日本学生支援機構における未返還額は年々増加し、2012 年３月の時点で過去最大の８７６億円にも達しています。支援機構は、2008 年年以降の利用者で、３ヵ月以上滞納している人の情報を全国の銀行個人信用情報センターに登録（ブラックリスト化）するなど、回収策を強化しています。ブラックリストに載せられると、住宅ローンやクレジットカードなどの審査が通らなくなる可能性もあります。ＯＥＣＤ（経済協力開発機構）に加盟する３４ヵ国中、大学授業料が有料で、しかも給付型奨学金のない国は日本だけ。さらには、対ＧＤＰ比で見た高等教育にかける公的支出の 割合は、ＯＥＣＤ諸国の平均を大きく下回っています。

中学、高校、大学の卒業３年後の離職率は、それぞれ64.2%、35.7%、28.8%となっています。（いずれも平成21年３月卒業者）（資料出所）厚生労働省職業安定業務統計



将来を担う若者が安心・納得して働き、その意欲や能力を十分に発揮できる社会の実現を目指さなければいけません。

その他、自殺、子供への虐待、DV、ひきこもり、などの青年層を取り巻く諸問題の多くは、安定した雇用・収入があり、誇りを持って仕事をできる世の中であれば解決できるかもしれません。「貧困」という状況が生み出す問題は本人にとっても社会にとっても大きな損失です。問題の解決のためにも私たちは絶えず声を上げて、その活動をこれからも進めていかなければなりません。

３．青年部の組織強化と役割・展望

今年の全労連東海北陸ブロック・サマーセミナーは岐阜にて、110名の参加で大成功しました。

今、全国各地で多くの青年がヨコのつながりを求めています。同じ世代の青年たちとつながりあって仲間を信じ、みんなで手を取り合うことができるのはまさに労働組合です。次世代を担う私たち青年の連帯と行動が社会を動かす力にもなり得ます。そのためにもみんなで考えて、必要ならば専門家を呼んで学習することが重要になってきます。

労働組合は誰のために存在するのか？歴史的に見ても現在でも働く者のためであるのは間違いありません。もっとも、働く人々が増え、働き方が社会問題を生み出している今日において、労働組合が果たすべき役割は、国民的なレベルに拡大してきています。日本政府は災害支援の公共性を極度に限定して、復興のための財政負担を極力抑え、これを自己責任にまかせるという，アメリカですらしないような極端な新自由主義的棄民政策をとっています。こうした新自由主義は、国民レベルでの抵抗勢力を凌駕しようと試み、労働組合への攻撃を強めます。

団塊の世代の大量退職とともに、労働組合の組織力も低下しています。全労働者のうち労働組合に加入している人の割合を示す推定組織率が 2012 年６月末時点で１７．９％（前年比０．２ポイント減）と、昭和２２年の調査開始以降、過去最低を更新しています（厚生労働省の労働組合基礎調査）。

しかしながら、新たに若手が役員となり、若い人の組織化に成功したところもあり、世代交代とともに新たな労働組合の可能性も見ていけます。また、脱原発や反ＴＰＰ運動など市民運動とのかかわり（一点共闘）も各地でおこなわれています。今こそ中立組合訪問や、中小企業アンケートによるネットワーク作り、民主連合勢力の構築をめざして、全労連が掲げている『労働組合の初歩的で基本的な原則』

①　資本からの独立　資本（会社）から独立し、労働者の立場に立つこと。

②　政党からの独立　政党と労働組合の性格の違いをふまえて、特定政党支持やカンパの強制などは行わない。

③　一致する要求での行動の統一　組合間、組合員間の方針や思想・信条の違いは認めたうえで、一致する点については協力して行動し、共通する要求を実現していこうという立場で運動を広げていかなければなりません。

そうした中、青年協では、今年は各単産の青年同士の交流がしたい想いがあり、バスツアーなどの企画を４回行いました。青年らしく楽しい企画を通じて自分たちの権利を学び青年の想いや感じたことを声に出して表現してもらい、これからもさらにつながりを深めあう場をつくり続けていきます。

[2]とりくみの総括と今後の方針

●総論

今期の青年協の幹事会においては、前年度から引き続きの幹事も多くいたため、前年度での成果や課題を踏まえて、第一回の幹事会から一年間の目標を定めることができました。幹事全員で決めた目標を活動の軸として確認することができたので、活動がぶれにくく成果や達成感が多く得られたと考えます。

幹事が決まって最初の幹事会で青年の特徴をブレインストーミング方式で出し合い、B紙にマッピングしていきました。その中から青年層のニーズを抽出しました。異業種の人たちと出会う機会が少ないこと、青年層で楽しむ場が少ないこと、深いかかわりがなかなか生まれていないことなどから、今年度の青年協の目標は、「出会う、楽しむ、つながるＮＯＷ」に決定しました。それとともに、青年らしく仲間と楽しむ中で笑顔が増えてほしい、また楽しむ中で仲間が増えてより多くの笑顔が生まれてほしいという思いから、今年度の幹事の呼び方を「スマイラル」（スマイルとスパイラルを合わせた造語）とすることにしました。

さっそく､一年間でどこまでいきたいかを話し合い、それぞれの行事でステップアップしていけるように計画を立てました。たとえば、冬の最初の企画でスキーツアーを行い出会いの場とする。春には地引網をして更に新規加入者と出会い、一緒に力を合わせてひとつのことをする中で楽しみつつもつながりを深める。夏には一泊でキャンプへ行き、自然の中で参加者にも企画の一役を担ってもらいさらにつながりを強化する。秋に総会も兼ねて今までつながってきた仲間とつながりを確認しつつ次の年への活動へと引き継いでいく。

それぞれの行事が別々の物になってしまわないためにも、以下のようなシステム面の強化も行いました。

- 行事の最後にアンケートを配り次の企画への改善点を見つけるとともに参加者のリピート率を増やす
- 一つの行事を行う際には必ず次の行事の日程を決めておいて前の行事で宣伝できるようにする
- 毎回参加してくれている人がより楽しめるようにオリジナルソングをつくる

以上のようなことを考えながら一年を過ごしたため、参加者も増え、リピート率も高まり、行事の質も高くなったと自負しています。

一方で課題として挙げられるのは、強くなったつながりを、次の大きな活動につなげられなかったことです。当初は多くの参加者を集め、つながりを深める中で共通のニーズから社会を変えるような活動へとつなげていける仲間を増やすという大きな期待があったのですが、そこまでいけなかったということです。小さな成果としては、青年協の企画への参加者がサマセミへも来てくれたり、企画参加者同士で個別に遊びにいくなどというつながりは生まれているので、もう少しという感覚はあります。

１．青年の交流・連帯

◆第２３回愛労連青年協定期総会（昨年度）

2012 年 10 月 27 日に第２３回青年協定期総会を行いました。参加者は 38 名(生協労連、全印総連、自治労連、福保労、医労連、愛高教、全国一般、検数労連、東海法労)でした。今回の総会は今までとは形式を変えて他の組織の人たちとつながりをつくりたいという昨年の代議員の意見も反映させて、お店を貸しきって行いました。

前半に総会を行い、後半は交流会としました。総会

では、一年間の活動の写真をスライドショーにして紹介し、参加者にわかりやすいような形にし、参加した代議員が来年の企画に参加したいと思ってもらえるような総会になりました。後半は交流会を行い、他の単産の青年と交流することができました。その中で、代議員に青年協としてどんな企画をやってほしいかと意見も聞くことができて、来年の活動を作っていく参考にもなりました。

来年度も参加したいと思ってもらえるような楽しい企画をつくり、さらに多くの青年がつながりをつくれるように活動していくことを確認しました。その後、2013 年度の新幹事が選出され、団結頑張ろうと締めくくりました。

◆青年協冬ツアー・やぶはらゲレコン

冬企画としてスキーツアーを企画していたところ、青年らしくゲレコンをやるのはどうかというアイデアが出ました。話を進める中で長野県の木祖村にて村おこしの一環として企画をしてくれるということがわかり、最初の企画ということもあり、今回は木祖村の企画に乗る形の企画としました。

当日は愛知から４０人以上の参加者がありバスを貸しきって現地に向かいました。バスの中からゲームを行い盛り上がった状態で薮原スキー場へ到着しグループに分かれてグループ滑走。夜は木祖村のパーティーへ参加しました。地元の名物アーティストたちのライブや伝統芸能の獅子舞も見ることができました。その後は愛知の参加者だけで宿でゲームをして更に盛り上がりました。ゲームだけでなくサイコロトークも盛り上がり、つながりを深めることに成功しました。次の日は朝から自由滑走です。前日に知り合った、好きな人と自由に滑りました。夕方には閉会式も兼ねてカップリング発表です。気になる相手の番号を縁結びＢＯＸに入れておき、お互いに名前を書いていた二人が発表されるというものです。５カップルも発表されて盛り上がりました。帰りのバスもゲームをしたり、地酒を飲みながら自由に交流する時間を楽しんだりしました。最初の企画でしたが、そこここで小グループが生まれ、その後の行事へとつながる大きな成功を得ました。

◆青年協お花見会

お花見会を労働会館で行いました。当日は、各単産をこえて一般の青年労働者の参加もあり、とてもにぎわいました。飲んだり食べたりして、たくさんの人と交流し盛り上がりました。

青年協ってどんな活動をしているのか、今まで活動してきた写真などをスライドショーにして紹介し、参加者からも企画に参加したいという声もあがりました。また、お花見会ということで、参加者一人一人桜の花びらに青年の要求を書いてもらい、桜の木を作りました。「賃金をあげてほしい」や「安心できる生活を」など切実な思いが出てきました。

そして、地引き網ツアーの宣伝もして次の企画につながるお花見会になりました。

◆青年協新歓地引網バスツアーin 内海

昨年に引き続き新歓交流企画として「地引網ツアー」を内海で開催しました。

この地引網ツアーはスマイラルのテーマである“出会い・楽しむ・つながる・NOW”の「出会い」に主眼を置き、参加者に企画を楽しんでもらうだけでなく、青年協との「出会い」、仲間との「出会い」を目的に企画をしました。

この地引網ツアーには各単産だけでなく、初めて青年協企画に参加する単組や一般の青年労働者の参加もあり、計 50 名の参加となりました。

当日はあいにくの天気でしたが、レクレーションをはじめ、大人も子供も無心に網を引っ張りたくさんの魚が捕れた時の様子はとても楽しそうでした。捕った魚を浜辺で BBQ や刺身として食べたので、魚の新鮮さに加え、その場の雰囲気も相まって、参加者からはとても美味しいと評判でした。

また、企画の終わりには“青年協ソング”を披露し、みんなにも一緒になって歌ってもらいました。雨が降ってきたこともあり、当初の予定通りにはいきませんでしたが、今回のテーマ「出会い」から、次につながる「一緒に楽しめる仲間がいる」ことを感じることができた企画になりました。

◆青年協夏バスツアーin ふくべの里

青年協独自の企画としては、初めてとなる泊まり企画「青年協夏バスツアー」は計３５人の参加があり、大いに青年らしく盛り上がった企画となりました。川遊びにＢＢＱ、流しそうめん、キャンプファイヤーにきもだめしとひと夏の楽しい思い出ができました。

冬、春と企画を重ねてきて今回の企画では、今まで以上につながりを強化し青年の思いを共感していきたいと考えていました。初めは少し緊張した様子の参加者も、ゲームや川遊び、ＢＢＱなど企画が進むにつれ緊張も解けいき楽しく交流することができました。夜のキャンプファイヤーでは、1 人ひとりの『思い』を言葉にして伝え合うことができました。企画に参加してみての率直な感想や企画に参加してみて今の自分が仕事のことばかりになっていたなと振り返るきっかけになったという方もいました。1 人ひとりの思いをじっくり聞くことができて本当に良い時間となりました。

今回は、東京や関西方面からも青年が参加してくれて県を超えたつながりをつくることができました。どの職場も仕事って大変、でもこうして休日に同じ青年同士が集まり共に笑い合い同じ時間を共有することで明日も頑張ろうと気持ちを新たにすることができるのが青年協の企画だと感じます。初めての泊まり企画、幹事の少ない中でどう運営していくか心配な面も多々ありましたが、参加してくれた仲間たちが助け合い一緒に準備も片づけも行ってくれました。準備も片づけもどの時間も楽しい交流の場となりました。この企画を成功させることができて本当に良かったです。

◆第 22 回東海北陸ブロック・サマーセミナーin 岐阜

1、ブロック会議の様子

各県から青年が集い、より良いサマーセミナーにしようと話し合いました。広報部、ネゴシエーター、企画部と係りを分けて取り組みました。

実行委員会を 3 月からほぼ毎月行い、スローガン、内容をみんなで決めることができました。

2、青年協の様子

今年は愛知ではサマセミ実行委員会は立ち上げず、青年協からサマセミ担当者が実行委員会に参加する形で取り組みました。

3、第 22 回東海北陸ブロックサマーセミナー in 岐阜

第 22 回のサマーセミナーのスローガンは『ギフ（岐阜）&テイク～岐阜きてスッキリ@モヤモヤをキラキラに☆～』青年がもっている不安や煮え切らない『もやもや』を、サマセミでの出会いや学習で力に変えようという思いを込めました。愛知、岐阜、三重、静岡、石川、福井、富山、神奈川、東京から青年が集い合計 110 人の参加者で行うことができました。

一日目の全体会はスイーツから始まる夏の終りのモヤ出しデトックスと題し自己紹介、班対抗クイズ、パフェづくりで交流しました。モヤ出しデトックスではモヤ出しシートを使い、政治モヤ、仕事モヤ、ラブモヤ、平和モヤをそれぞれ出してもらい普段自分が思っているモヤモヤを発表しあいました。自分の思いを整理することができ、また他の青年がどんなことを思っているのか知るいい機会になりました。最後に一番のモヤモヤをモカ重症ゾーンに書いてみんなからのアドバイス、感想を書いてもらい記念の一枚になりました。

二日目の午前中は分科会を行い、静岡は反原発、三重は憲法、石川は労働、富山は恋愛・結婚、岐阜は貧困でそれぞれ行いました。愛知は富山の分科会を一緒に行う形で行いました。分科会の中で参加者が一番多く 30 人ほど集まったのですが参加者の反応がよく盛り上がりました。前半は恋愛名言集クイズ、後半は結婚討論会を行い､結婚するには何が必要？なぜ結婚しない人が増えてるのか？ 結婚するにはどうすればよいか？で班ごとに討論、発表しあいました。参加者からは草食系が増えた、出会いがありすぎる、世話焼きおばさんがいなくなったなど様々な意見が出ました。最後に既婚者から結婚のメリット、デメリットを聞きました。他の人の意見や実体験を聞き、結婚について考えるいい機会になったと思います。

午後のお楽しみコースはクライミング、寺ヨガ、写真教室、温泉、岐阜の学問、香り会館、金華山登山、柳ヶ瀬ブラリといつもより数が多く、少人数で深く交流できたかなと思います。

最終日は一日目の全体会で出されたモヤモヤを要求書としてまとめ、その要求の実現に向け、会社側や政府と模擬団体交渉を行いました。ブラック企業をなくしてほしい、消費税増税反対などをテーマに掲げ、交渉の仕方をみんなで話し合い、本当の団交のように真剣に交渉に臨みました。組合に入ってない参加者には難しかったかもしれませんがもっと勉強しなければと思った、知らないことを知れてよかったと参加者からの声を聞くことができました。

モヤモヤをキラキラにとスローガンに掲げた今年のサマセミでしたが交流、学習を通し、最終日には参加者みんながキラキラの笑顔になることができました。今回のサマセミで得たことを力に青年がそれぞれの職場で輝き、各県の青年部活動が盛り上がっていければと思います。

◆１３年度代表委員会

参加は、執行部３、代表委員７（自治労連、医労連、福保労、愛高教、愛教労、生協労連、東海法労）、傍聴３、事務局１でした。総会に向けての議案や代議員数、役割分担などを協議し、採決されました。

討論では、「青年部としての活動が低迷しており、その原因がわからない」「青年はすぐに諦めがち。労組として発信しなければ」「非正規問題など、青年層の話題をクローズアップして学習、発信してもよいのでは」などという現状報告や意見などが出され、今後はこれらの意見を踏まえて、総会に向けての議案を完成させ、提案していくことになります。

◆ボウリング大会

13 年度の定期総会のプレ企画として秋のスポーツ行事をおこないました。参加は 26 名（女性 14、男性 12、全印総連、福保労、愛高教、きずなが参加）。これまで 13 年度は季節毎に４回の企画（冬、春、夏そして秋）をおこない、それらにすべて参加している人と、今回初参加した人とが新たなつながりをつくることができました。「チーム・スマイラル」として、つながりを作るために、継続的に企画をおこなってきたことで、様々な成果や結果を生んできました。こうした成果などを受けて、定期総会において、今年度の活動の総括をおこないたいです。

２．平和と民主主義

◆若者平和ネットワーク

平和委員会青年学生部を中心に、恒常的に平和について話せる場を作ろうとネットワークを立ち上げました。愛労連青年協として、今年度は平和に関する取り組みができてないですが、今後このネットワークを中心にして、平和への取り組みを強化していきたいです。

３．権利・労働条件向上のたたかい

①最賃生活体験

毎年２月に行われる最低賃金生活体験に幹事の一部が参加をしました。事前・中間・事後の学習交流会にも参加。賃金全体の底上げを図るにためにも、最低賃金を上げることの大切さを学びました。

達成は難しいものの、家計簿をつけることで、最低限度の生活を送るのにどれだけのお金が必要なのかがわかりました。意外と携帯電話やパソコンのインターネット代金のような通信費がかかること、御祝儀や友達との旅行や飲み会のお金が大きなウェイトを占めていることがわかりました。それらをすべて削れば最低賃金でも生活ができるでしょうが、そんなことをしたら友人は失うし、文化的な生活ができなくなってしまいます。事後の交流会では青年の体験者から「書籍が買えなくなる」「趣味や資格試験のお金が出せない」など切実な意見が飛び交いました。

②トヨタ総行動

毎年行われているトヨタ総行動、今年も多くの労働者がトヨタ本社近くの公園につどいました。全国から計 1,000 人の参加があり、内部留保や若手労働者に対する雇用について、地元愛知の大企業に社会的責任を追及するなど多くの訴えを行ってきました。

トヨタ総行動でのアピールマラソンを青年協として発案したのですが、残念ながら実現には至りませんでした。

当日は雪が降る中、公園からトヨタ本社までの道のりをデモ行進してきました。青年協幹事もデモ行進に参加してきました。トヨタ関係の労働者だけでなく保育関係や医療関係といった他職種の労働者も一丸となってトヨタに対して訴えを行ってきました。

私たちの訴えが、１人でも多くの方々の足を止め共に考えや思いに共感してくれるといいですね。

③第 84 回愛知県中央メーデー

毎年恒例の５月１日の愛知県中央メーデーに数名の幹事とともに参加をしました。

今年は昨年と同じ白川公園で集会が行われ、その後、栄交差点までデモ行進を行いました。

メーデーとは労働者が統一して権利要求の活動を行う日です。青年協としては、４月に行われた青年協お花見会の際に、桜の花を模った用紙に書いてもらった「若者の声」を届かせようと、桜の木をモチーフにした神輿を担いで、栄の街を行進しました。

多くの人に今の若者の現状、要求を知ってもらいたい、そのためには先ずは自分たちが発信していくことが大切です。今後も若者たちの要求を積極的に発信していきます。

なお、メーデーでは参加者団体からの出し物についてエントリーすると部門別に選考されますが、青年協の神輿はデコレーションコンクールでみごと優秀賞を受賞しました。来年は最優秀賞を獲得したいと思います。

④愛労連特別セミナーin 蒲郡

2 泊 3 日という日程で、3 本の講義と 4 回の班討論をおこない意義深い学習ができました。中田進さんの講義では労働組合の基礎と題して、組合活動と日常活動をわかりやすくお話しいただきました。公務員バッシングの持つ様々な意味や三つの闘争（政治、経済、思想）の話、三権分立と憲法の関係などわかりやすい講義でした。特に興味深かったことは、青年の状況把握についてのことでした。青年の勧誘や状況把握の目的は、ともすると、「人が足りないから」「仕事のあとを継いでくれる後輩が欲しいから」「このままでは組合がなくなってしまうから」などになってしまうが、本来の目的である「青年の要求実現」「人間的成長と人生のため」というものを忘れてはいけないという話でした。上からやれと言われて、「俺だって生活を壊しながらやってきたんだ」と言われてやりたがる青年なんていないという思いは、強く共感できました。

その後の、班討論では成功する青年の行事について、その要因と具体例まで話し合えたので達成感があり、スマイラル（青年協）で日々考え続けたよい企画をおこなう方法について、さらに深めて、発表まで持っていけたことはスマイラルでの成果を広めることができたので、非常に意義深いものとなりました。

⑤青年連絡会の活動に参加して（名古屋市長選挙）

今年度 4 月に行われた名古屋市市長選挙の活動に青年協も参加しました。名古屋市政をよくするために青年たちが集い、自分たちの思いや考えを伝え合いながら活動を進めていました。ほぼ毎週の行動では、名古屋市政を変えるために沢山の方々が一丸となって訴えていました。今後も青年連絡会の活動に参加していきながら沢山の青年たちとつながっていきたいと思います。

⑥全国青年大集会２０１３

今年は残念ながら大雨の中、傘やカッパを着ての集会となりました。しかし、全国から沢山の青年が集まり、雨にも関わらず約 1500 名もの青年が明治公園に集結していました。オープニングのあいさつでは、個々の青年の思いは小さくとも共に活動する・共感する仲間がいる。その仲間たちと運動をしていくことで、また新たな地で青年が刺激され運動が作られている。今では各地域で沢山の青年の運動が拡大している。そんな報告から始まった全国青年大集会。仕事は過密になっているにも関わらず、青年の半数は非正規雇用という実態。青年だからといって使い捨て、過密労働をさせていいわけではない！誠実にやりがいある仕事をして人間らしい生活を送ることは、当たり前のことなんだ。と発言者の皆さんの話を聞いて感じることができました。

秋田書店と戦う女性の方は、マイクを握りしめながら自分の思いを沢山語ってくれました。自分は、読者を裏切るような仕事はしたくない！と上司に思いを伝えても「読者はバカだからだましやすい…」「女なんだから早く結婚しろ…」などひどい言葉をあびせら

れたそうです。孤独で悲しい日々もあったそうですが、今ではわかってくれる仲間がいる。支えてくれる仲間がいる。みんなで社会を変えよう、今日前へ一歩進もう！と力のある発言していました。他にも「鮮度」という言葉で解雇を突きつけられた女性の方や定職に着けず生活保護をうけた男性の方も強い思いで発言していました。

各地で青年たちが自分たちの思いを共感し合える仲間と共に訴えていました。医労連や全教、自治労連も各県・全国の仲間たちと支え合いながら活動している報告を聞くことができました。今回得た青年たちの熱い思い、活動を愛知にも持ち返ってこれまで以上に青年たちがつどい、交流し、つながり、学び合い、自分たちの要求を実現させていけるように活動していきたいと思いました。

４．大きく強い愛労連を作ろう

①組織強化　※ヨコのつながり、単産との関係

青年協では組織強化のために単産・単組との関係を深めていくということも目標としてきました。その一つとして、東海地域法律関連労働組合（東海法労）で行われたクイズ大会に３名の青年協幹事が参加しました。東海法労は名前の通り、東海地域の法律事務所など法律関連の職場で働く労働者の労働組合です。昨年まで東海法労が青年協の企画に参加することはありませんでしたが、私たちの地道な活動で今年の企画に参加してくれるようになりました。そのような状況もあり、東海法労の企画したクイズ大会に参加したことで、その組合の雰囲気なども含め、お互いにさらに相手を知ることができたのではないかと思います。

また、４月には医労連の新歓に青年協からも参加し、青年協バンドで盛り上げ、今後の企画も宣伝するなどして、たくさんの医療、介護で働く青年と交流できました。

今後もほかの単産・単組とのつながりを深めていく活動を継続的に行っていくことは組織強化の一翼として重要ですので、積極的に関わっていきます。

②機関会議　※幹事会の様子

幹事会は月に２回のペースで幹事の予定に合わせて、特に曜日を決めずに話し合って日取りを決めて行っていました。昨年度と同様もしくは、それ以上に和気あいあいとした雰囲気で毎回話し合いをしていました。特に今年度は大きな企画をたくさん行ったため、話の内容の大部分は企画をどのようにより質の高いものにしていくかというものでした。より楽しくて、つながりが生まれやすく、かつ参加しやすい企画にしていくために、行事の中でやるゲームや我々の活動の目的の伝え方など細かいところまで幹事一人ひとりの意見を大切にしながら議論を重ねました。行事の時間や持ち物、担当を決めれば終わりというような事務的なものではありません。行事の意義、何回目の行事であって、今回はつながりをどこまで高めたいか、などを深く話し合うことでおのずとプログラムが決まって、質も高くなっていく。そんな話し合いができていたと思います。

議論が白熱すると終電になってしまうこともありましたが、本気で質の高い企画を運営していくつもりで議論をしていたので苦痛ではありませんでした。むしろ組合関係の会議の中では最も楽しいものでした。それは自分たちの意見や努力で好きなように大きな企画を打つことができるからだと思います。逆に議題が少なく早めに終わったときも、幹事みんなで飲みに行って、結局終電近くなることもしばしばありました。それほど幹事の間のつながりも信頼感も多くの行事を通じて強くなっていたのだと思います。

③上部・共闘団体　※ブロックや全労連とのかかわり

今年度は全労連青年部常任委員・東海北陸ブロック選出に愛労連青年協より選出することができませんでした。東海北陸ブロックでは、県労連青年部を確立しているのは愛知だけです。共同の取り組みであるサマセミなどを通じて、他県にも青年部を確立するよう、愛知から積極的な協力をしていきたいです。そして、ブロックでの十分な協議を経て、全労連青年部常任への選出をおこないます。

全国の青年と語り合う機会はとても有意義で、各地域での仲間も増えます。次年度も青年協より常任委員を選出し全労連青年部の取組みに積極的に参加して、全国の労働組合青年部とのつながりを強めていきたいと思います。

④機関紙（AIAI）＆ニュース発行などの広報

愛労連青年協のとりくみを伝える機関紙「AIAI（アイアイ）」は、愛労連新聞の１コーナーを設けて、新鮮な情報や各単産の企画を報告してきました。また、愛労連青年協が行った企画・イベントでは、不定期ですが、愛労連のホームページ上でもそのとりくみを紹介したり、その活動を広く伝えることができました。さらに、ＳＮＳを通じてのつながりを作ることで日々の活動の情報を発信し、また青年の関心や興味を知る契機に大いに役立ちました。

５．今後の日程

2012年

12月14～15日	全労連青年部代表委員会	@全労連

2013年

1月 6日(月) 8:00～	新春大宣伝	@ミッドランド前
1月 8日(水) 18:30～	愛労連旗開き	@東館ホール
1月11日(土) 13:30～	新春大学習会	@ガイシフォーラム
2月 2日(日)	消費税増税反対大集会	@白川公園
2月11日(祝)	トヨタ総行動	@豊田市内